

活動状況報告書（12月分）

学生留学コース 榎谷 賢太

12月に入ってバレンシアは急速にクリスマスモードに突入しました。街中はクリスマスのイルミネーションで飾られ、心なしか街中は賑わったように感じます。ただ気温は相変わらず温暖で、北海道の秋の初めくらいの気候です。街中のオレンジの木が満開で綺麗です(写真1)。街の中央の広場のクリスマスツリーの横にヤシの木が生えているのはここがスペインであることを再確認させられます(写真2)。

12月に入ってすぐの日曜日にサウロ教授のご自宅でクリスマスパーティーを研究室のメンバーで行いました。サウロ先生はイタリア出身で、奥さんもイタリア出身なので大変美味しいイタリア料理をご馳走になりました。日本ではこの季節になると忘年会が開かれています。こちらには忘年会という概念はなく、クリスマスパーティーがそれに代わるもののようです(写真3,4)。

研究は順調に進んでいます。最近では実験と同時に論文を書いています。論文というと、実験をしてその結果と考察を書くこと、またアンケートや臨床研究など実験室外の研究も論文となります。これらの論文は一般に原著論文と言われ、その研究分野に新しい知見をもたらします。一方既存の論文を整理・考察して、そこから新しい知見を導き出すものを総説論文と言います。原著論文は実際に実験を行う必要がありますが、総説論文では実験を行う必要がありません。一方で総説論文では世の中に無数にある論文から必要な情報を抽出する必要があるため、より多くの論文を読む必要があります。

現在まだスペインでの実験が終わっていないので総説論文を書いています。総説論文を書くためにはより多くの時間が必要ですが、日本にいる際は臨床で忙しく行うことはできません。ただ一方で総説論文を書いてみると、自分の知らなかった知識が整理され、自分の勉強のためにも良いなと感じました。論文の性質上、当たり前なことでも既存の論文から該当の論文を探して、引用をする必要があります。一方で当たり前のことが論文で見つからない場合は、学問の世界では当たり前ではないということになります。

実はこのような今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと気付かされる瞬間が総説論文を書いていると多々あります。日本では、大学では、習った知識というものがあるが実は一般的ではないということに気づくことは衝撃的なものです。物事を批判的に観察するということは、研究だけではなく診療においても大事なことなので、研究で得られた知識や考え方というものも臨床にも活かしたいなと感じました。

写真1: 満開のオレンジの木



写真2: クリスマスツリーとヤシの木



写真 3, 4: サウロ先生の家でのクリスマスパーティー

